



令和6年 3月15日

慶長遣欧使節スペイン到着410年記念
ルイス・ソテロ没 400年

令和遣欧使節2024

企画書

1. 経緯

1) 慶長遣欧使節とハボンさん

1613年仙台藩主伊達政宗公の命により、支倉常長を正使、宣教師ルイス・ソテロを副使として慶長遣欧使節団が組織されヨーロッパに派遣されました。一行は伊達の黒船「サンファン・パウティスタ号」に乗り込み、同年10月石巻の月の浦からスペイン・イタリアに向けて出帆。日本史上初めての外交使節です。一年後の1614年10月セビリア県コリア・デル・リオ(以下「コリア市」)に上陸、ソテロの故郷であるセビリアで大歓迎を受けました。丁度今から410年前のことです。常長らは、さらにその翌年イタリアのチヴィタヴェッキアからローマに向かいローマ法王にも拝謁し、ローマ名誉市民の称号まで与えられています。

常長が日本に持ち帰った関係資料(仙台市博物館所蔵、いくつかが国宝に指定されている)とスペイン国立公文書館所蔵の資料が、2013年にユネスコの世界記憶遺産に登録されました。また一行を乗せたサンファン・パウティスタ号は、2023年に日本船舶海洋工学会によって「ふね遺産」に登録されました。

コリア市には、使節団の末裔とされ、スペイン語で「日本」を意味する「ハボン」姓を持つ人々が700名以上いると言われています(セビリア県全体では1,000人以上)。コリア市のハボンさんたちは、1980年代から「スペイン・ハボン・ハセクラ協会」という組織を作り、日本との国際交流を進めてきました。何人ものハボンさんが宮城の地を訪れています。1992年には仙台から大使節団がコリア市を訪れ、ハボンさんたちと交流しています。さらに2013年には400年記念行事の一環として支倉家第13代当主の支倉常隆氏がコリア市に招かれ、袴に陣笠姿で諸行事に参加しました。

2) 大震災以降の国際交流

東日本大震災を機にハボンさんたちとの親睦は一層深まりました。「自分たちは仙台藩の侍の血を継いでいる」と信じているハボンさんたちは、日本人の誇りを胸に遠い故郷の復興を願っていました。そんな折、米国NPO法人「風の環コンサート」が推進する形で音楽とスポーツを中心に新たな文化交流が始まりました。以下が主な文化交流(事業)です。

- 2013年8月、ハボンさん10人とコリア市の市民合唱団21人を仙台・石巻に招待。石巻中央公民館と仙台カトリック元寺小路教会聖堂にてそれぞれ合同合唱祭と俳句交流会を開催しました。(宮城県慶長遣欧使節出帆400年記念協賛事業 ハボンさんたちと祝う「慶長遣欧使節出帆400年記念コンサート」)

- 2014年7月、仙台の合唱団「萩」とニューヨークの合唱団「とも」、そして俳人の黛まどかさんと石巻の俳句愛好家数名がコリア市とセビリア市を訪問。支倉一行が約1か月間滞在したセビリア市アルカサル宮殿(世界遺産)とコリア市文化センターで合同の合唱コンサートと俳句の交流会を行いました。(俳句と合唱でつなぐ日西文化交流プロジェクト)

- 2015年9月、スペイン・ハボン・ハセクラ協会のメンバー10名あまりがニューヨークで開催された第8回風の環コンサートに参加。大震災で亡くなった英語教師テイラー・アンダーソンさんを追悼する俳句をそれぞれ披露しました。

- 同年11月、スペイン・ハボン・ハセクラ協会の副会長ファン・マヌエル・ハボン氏が東北クロッシング・プロジェクトで来日。最終ゴール地の石巻でテイラー・アンダーソンのご両親や合唱団メンバーと交流を深めました。



- 2017年4月、NYの合唱団「とも」がコリア市、セビリア市を訪問。コリア市庁舎にて交流会。地元の小学校を訪問。さらにイタリアのチヴィタヴェッキアでは日本聖殉教者教会を訪問。着物姿のマリアさまのフラスコ画の前でミニコンサート。
- 同年9月、ニューヨークのカーネギー大ホール(アイザック・スターン・オーデトリウム)で開催された第10回風の環コンサートにコリア市の市民合唱団コロ・ダブルを招待。スペイン・ハボン・ハセクラ協会のファン・フラン・ハボンも同行した。仙台から参加した東北大学男声合唱団・混声合唱団やNYの合唱団「とも」と交流しました。
- 同年11月、コリア市長モデスト・ゴンザレス氏とスペイン・ハボン・ハセクラ協会のファン・フラン会長が来日。常長公の墓所といわれる仙台の光明寺、大郷町のハセクラ・メモリアルパーク、川崎町の円福寺の他、東北大学文学部、仙台市長、石巻市長、宮城県知事を表敬訪問しました。
- 2018年9月、コリア市に隣接するトマレス市の少女合唱団を第11回風の環コンサートに招待。少女たちはニューヨークの日本人学校「育英学園」も訪問し、終日楽しく交流しました。
- 2019年4月、前年に発足したハボン・ハセクラ後援会との共催で、コリア市にて第1回ハセクラ・カップを開催。平成最後の遣欧使節団としてコバルトーレ女川のU15ジュニア20名を派遣しました。セビリアのレアル・ベティスU15、コリアのコリアCFのU15と三つ巴の戦いを繰り広げるとともに、レアル・ベティスのサッカー場でトレーニングに参加したり、セビリアCFの球場で本場ラ・リーガの試合を観戦しました。同時期にニューヨークの風の環少年少女合唱団の子供たち約20人も応援に駆け付けるとともに、地元の学校を訪問したりアンダルシア地方の学校が集まる合唱祭に特別参加するなど貴重な経験をしました。



2013年:石巻にて



2014年 :スペインにて



2015年:ニューヨークにて



2017年:石巻にて



2019年:スペインにて



2019年:スペインにて

2. 令和の遣欧使節として交流再開

2012年から続けてきたハボンさんたちとの交流ですが、2020年以降のコロナ・パンデミックで停止していました。コリア市、セビリア市、マドリッド市、バルセロナ市、チヴィタヴェッキア市、そしてローマ・ヴァチカン訪問などのハセクラ一行の足跡を辿る事業なども途絶えたままです。しかし、コロナ禍がやっと落ち着いてきた現在、これらの交流事業やイベントと再会しようという機運が高まってきました。

今年からコリア市およびチヴィタヴェッキア市ではJapan Weekが再開されます(10月後半)。そこで、これに参加する形で新たに合唱団を立ち上げ合唱団はせくら(Coro Hasekura)、コリア市およびチヴィタヴェッキア市の合唱団とそれぞれ合唱を通じて交流することを中心として、同時に一般からの参加者や地元経済界からの参加者も受け、支倉一行の足跡を辿るというツアーを企画しました。支倉家第14代当主、支倉正隆氏を団長とする令和最初の遣欧使節団です。

その概要(骨子)は添付の通りです。添付「概要(骨子)」を参照ください。
内容は参考としてご理解ください。今後の進捗状況に合わせて今後詳細を詰めていきたいと思っております。



3. 地元宮城から令和の英雄を育てよう！

慶長遣欧使節は、現在の郷土の文化・伝統・芸術を形成する基礎を作った仙台藩の祖、伊達政宗の数々の偉業の中でも特記すべき大事業です。政宗の夢そして野心を忠実に実行した常長の功績も、400年以上の時を超えて私たちは正当に評価しなくてはなりません。

しかし慶長遣欧使節という一大事業が日本の歴史上最初の外交使節だったという事実、そして支倉常長が日本人最初の外交官だったという事実は意外に知られていません。岩倉使節団の実に260年前の話です。そして世界に飛び出した郷土の英雄は常長だけではありません。常長に続いた英雄たちも正当に評価されるべきです。例えば；

- 初めて世界一周した日本の公人は誰でしょう？ 幕末に日米修好通商条約批准に仙台藩から抜擢されて渡米した玉蟲左太夫です。後に戊辰戦争が起こると、奥羽越列藩同盟の成立に尽力したことから「東北の坂本龍馬」と呼ばれる存在ですが、戊辰戦争後は責任を問われ壮絶な最期をとげます。
- その玉蟲から仙台藩の学問所で学んだのが高橋是清であり、富田徹之助です。「達磨宰相」といわれた高橋は、言わずと知れた日露戦争勝利の財政面での立役者ですが、若い時にサンフランシスコで奴隷として売られた話はあまりにも有名です。富田は仙台藩から抜擢されて、アメリカ・ニュージャージー州のラトガー大学に留学、学生的身でありながら初代ニューヨーク副領事となった逸材です。岩倉使節団が渡米中に大久保利通や伊藤博文の通訳を務めたことでも知られています。帰国後は、日銀総裁、東京府知事などを歴任した他、現一橋大学や地元仙台の現仙台一高や現県立二華高を創設、さらには多くの銀行や保険会社の創設にも寄与しました（七十七銀行もその一つ）。「仙台の渋沢栄一」と言われるほどです。
- 他にも、「ジャパニーズ・モーゼ」と呼ばれてエスキモー（イヌイット族）を救った石巻のフランク安田（新田次郎が「アラスカ物語」として小説化。さらに北大路欣也主演で映画化されている）。カナダに密航して事業家として大成功した“登米の及基（おいじん）”こと及川基三郎（同じく新田次郎が「密航船、水安丸」として小説化）。さらには「東洋のコロンブス」と言われた加美町出身の冒険家、横尾東作。ハワイ移民の先駆者、石巻出身の牧野富三郎など、江戸後期から明治にかけて海外に飛び出していった郷土の偉人たちは枚挙にいとまがありません。これらの偉人たちの名前は残念ながら（たぶん高橋是清を除いては）教科書には登場することはありません。宮城県はおろか全国的にもほとんど知られていない、というのが現状ではないでしょうか。しかしながら、政宗や常長が抱いた夢とロマンそして野心と情熱は、その後もこれらの偉人たちに受け継がれ、日本の近代化に大いに寄与したことは言うまでもありません。このように海外に目を向けたチャレンジ精神こそが郷土のローカリティの素地を作っていると言えると思います。（因みに、現在大リーグで活躍するスーパースター、大谷翔平選手は水沢出身ですが、水沢は旧伊達藩です。）

このように、私たちの郷土である宮城県には歴史的に日本の近代化に大いに貢献した先人たちがたくさんいるのです。私たちはそのような土壌を持つ宮城において生を受け、現在に至っています。先人たちの偉業に対して理解を深め尊敬の念を忘れることなく、次の世代に引き継いでゆく努力を続けていくべきではないでしょうか。この度の令和遣欧使節2024は、慶長遣欧使節の歴史的な偉業を振り返り、改めてその意義を踏まえて時代を繋いでいきたいという思いで企画しました。そして、ふるさと宮城に育ち次の時代を担う若者たちにも継承され、混迷するグローバル時代の中で、故郷への誇りをもって日本そして故郷を導いていくような人材が一人でも多く育ってくれることを願うものです。

令和6年3月15日

白田 正樹
ハポン・ハセクラ後援会 会長
スペイン・ハポン・ハセクラ協会 名誉会員
NPO風の環コンサート 代表

[ハポン・ハセクラ後援会ウェブサイト](https://www.japonhasekura.com/): <https://www.japonhasekura.com/>
[ハポン・ハセクラ後援会 | note](#)
[Welcome | NPO Circle Wind](#)
[Japan Choral Harmony ~合唱団「とも」| オフィシャルサイト \(jch-tomo.org\)](http://jch-tomo.org)